

■底生動物

本市では、主に干潟に生息する絶滅危惧種が確認されています。

現在は、干潟や海域を中心にランク 6 に該当する種が多く分布しています。

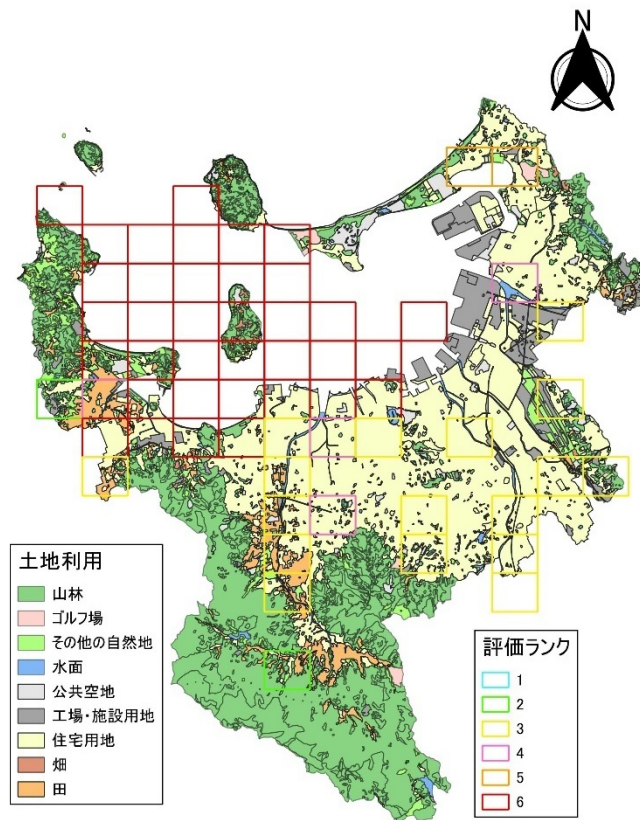


図 61 絶滅危惧種（底生動物）の分布状況

■昆虫類

本市では、主に草地や明るい林、水田、ため池などの水辺に生息する絶滅危惧種が確認されています。

現在は、島しょや山地、ため池を中心にランク 6 や 5 に該当する種が多く分布しています。

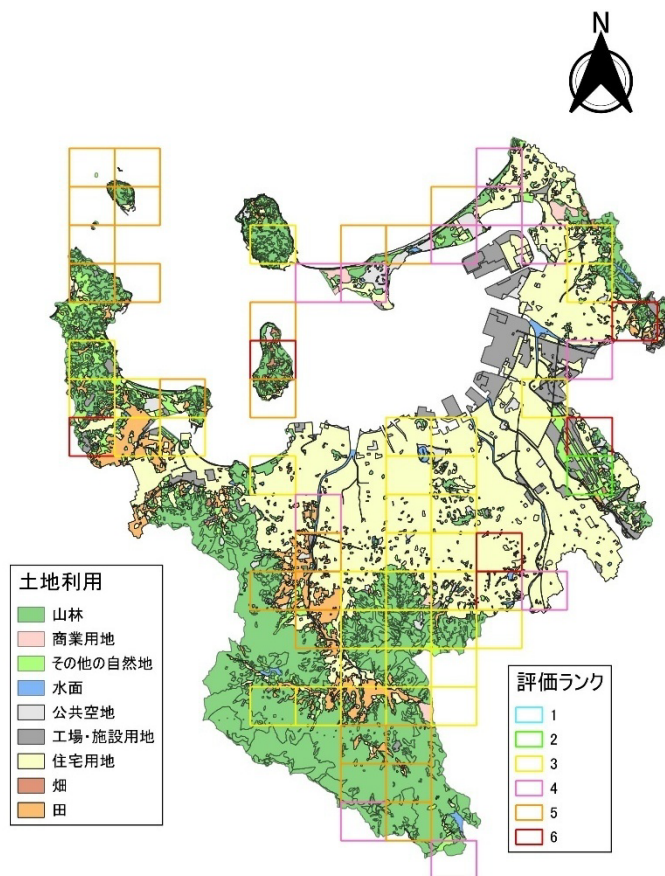
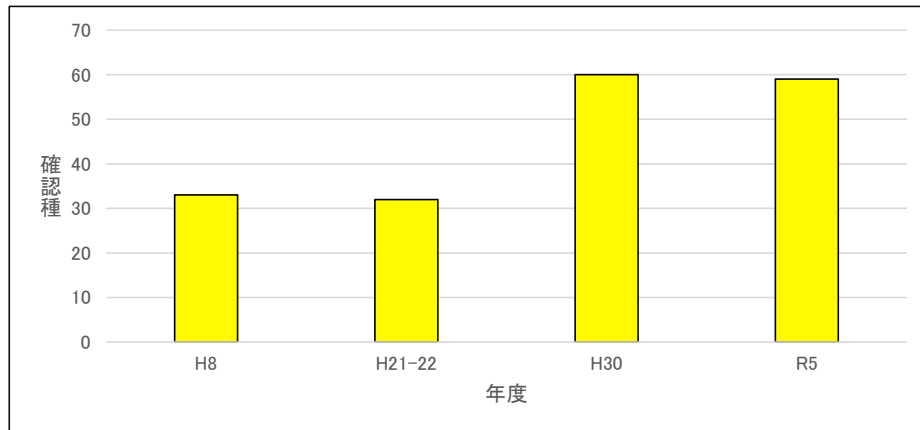


図 62 絶滅危惧種（昆虫類）の分布状況

② 種数の増減傾向

■植物

絶滅危惧種の確認数は増加傾向にあり、過年度から引き続き絶滅危惧種が多く確認されました。なお、増加した要因については、河川を重点的に調査し、貴重な塩生植物や湿生植物を確認したためであると考えられます。



出典:令和5年度自然環境調査(植生及び貴重植物)委託報告書(2024(令和6)年)

図 63 絶滅危惧種確認種数の経年変化 (植物)

■哺乳類・爬虫類・両生類

絶滅危惧種の確認数状況については、過年度から大きな変化は見られませんでした。哺乳類・爬虫類・両生類は分布域の広い種が多いため、一部の種の確認状況の変化は、気候変動よりも、土地利用の変化による影響を受けているものと考えられます。

表 12 絶滅危惧種の確認状況の経年変化(哺乳類、爬虫類、両生類)

分類	No.	種名	調査年度					希少種選定基準				
			H6年度	H12年度	H19年度	H24年度	H29年度	R4年度	①	②	③	④
ほ乳類	1	モモジロコウモリ						○				NT
	2	ユビナガコウモリ						○				NT
	3	スミスネズミ	○		○							NT
	4	ハタネズミ	○	○								NT
	5	カヤネズミ	○	○	○	○	○	○				VU
	6	キツネ			○	○	○	○				NT
	7	ニホンイタチ	○			○	○	○				NT
は虫類	1	ニホンシゲメ	○	○	○	○	○	○			NT	VU
	2	ニホンズツポソ					○	○			DD	DD
	3	タカチホヘビ				○						VU
	4	ジムグリ			○	○		○				NT
	5	シロマダラ				○		○				NT
	6	ヒバカリ	○	○	○		○	○				NT
両生類	1	カスミサンショウウオ		○		○	○	○		国内二種	VU	VU
	2	ブチサンショウウオ		○	○	○	○	○		国内二種	EN	NT
	3	アカハライモリ		○	○	○	○	○			NT	NT
	4	ニホンヒキガエル		○	○	○	○	○				VU
	5	ニホンアカガエル	○	○	○	○	○	○				VU
	6	ヤマアカガエル	○		○	○	○	○				VU
	7	トノサマガエル	○	○	○	○	○	○			NT	EN
	8	ツチガエル	○	○	○	○	○	○				NT
	9	カジカガエル		○	○	○	○	○				NT
ほ乳類7種、は虫類6種、両生類9種			10種	12種	14種	16種	14種	19種	0種	2種	6種	22種

【希少種の選定基準】

- ①文化財保護法、②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律、
- ③環境省レッドリスト2020、④福岡県レッドデータブック2011及び2014

出典:令和4年度自然環境調査(ほ乳類・は虫類・両生類)委託報告書(2022(令和4)年)

■鳥類

2024(令和2)年度調査及び前回調査以降の文献調査において104種の絶滅危惧種が確認され、コハクチョウ、ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)の2種(1種1亜種)が新たに確認された結果、これまで絶滅危惧種の確認数は134種となりました。1999(平成11)年度の調査では121種、2010(平成22)年度の調査では114種、2020(令和2)年度の調査では104種と、種数は減少傾向にあります。

■魚類

絶滅危惧種の確認状況は、過年度から大きな変化は見られませんでした。2021(令和3)年度に新しく確認された種、また確認できなくなった種については、いずれも確認地点がわずかであり、確認状況には偶発性が伴うため、環境の大きな変化などを示すものではないと考えられます。

表 13 絶滅危惧種の確認状況の経年変化(魚類)

種名	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和3年度	合計
スナヤツメ南方種	1地点(7.1%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	2地点(3.2%)
ニホンウナギ	0地点(0.0%)	4地点(28.6%)	5地点(29.4%)	4地点(23.5%)	13地点(21.0%)
オオキンブナ	3地点(21.4%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	3地点(4.8%)
カネヒラ	1地点(7.1%)	2地点(14.3%)	2地点(11.8%)	1地点(5.9%)	6地点(9.7%)
ニッポンバラタナゴ	1地点(7.1%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(1.6%)
カゼトゲタナゴ	1地点(7.1%)	2地点(14.3%)	1地点(5.9%)	1地点(5.9%)	5地点(8.1%)
ウグイ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	0地点(0.0%)	1地点(1.6%)
カワヒガイ	0地点(0.0%)	1地点(7.1%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(1.6%)
ゼゼラ	1地点(7.1%)	1地点(7.1%)	1地点(5.9%)	1地点(5.9%)	4地点(6.5%)
ツチフキ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	1地点(1.6%)
ドジョウ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	0地点(0.0%)	1地点(1.6%)
ハカタスジシマドジョウ	0地点(0.0%)	1地点(7.1%)	1地点(5.9%)	1地点(5.9%)	3地点(4.8%)
ヤマトシマドジョウ	2地点(14.3%)	1地点(7.1%)	3地点(17.6%)	2地点(11.8%)	8地点(12.9%)
アリアケギバチ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	0地点(0.0%)	1地点(1.6%)
アユ	4地点(28.6%)	5地点(35.7%)	4地点(23.5%)	1地点(5.9%)	14地点(22.6%)
ミナミメダカ	2地点(14.3%)	6地点(42.9%)	10地点(58.8%)	9地点(52.9%)	27地点(43.5%)
オヤニラミ	3地点(21.4%)	1地点(7.1%)	0地点(0.0%)	2地点(11.8%)	6地点(9.7%)
カジカ	1地点(7.1%)	2地点(14.3%)	2地点(11.8%)	3地点(17.6%)	8地点(12.9%)
カワアナゴ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	1地点(1.6%)
ヒモハゼ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	1地点(5.9%)	2地点(3.2%)
マサゴハゼ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	1地点(1.6%)
ウキゴリ	1地点(7.1%)	1地点(7.1%)	1地点(5.9%)	1地点(5.9%)	4地点(6.5%)
エドハゼ	0地点(0.0%)	0地点(0.0%)	1地点(5.9%)	1地点(5.9%)	2地点(3.2%)
集計地点数	全14地点	全14地点	全17地点	全17地点	全62地点

※平成18年度、23年度は平成28年度、令和3年度と共通の地点(福岡市内の地点)のみで集計

出典:令和3年度自然環境調査(水生生物)委託報告書(2022(令和4)年)

■底生動物

博多湾におけるカブトガニの捕獲個体数に関しては、地点によって年ごとの増減はあるものの、全体では横ばい傾向です。カブトガニは、国際自然保護連合（IUCN）、環境省、水産庁のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている希少生物であり、国際的な保護が望まれています。

表 14 今津干潟におけるカブトガニの産卵数（卵塊）の推移

年度	四所神社前	瑞梅寺川河口	江の口川河口
令和6年度	30	3	0
令和5年度	34	14	3
令和4年度	18	15	11
令和3年度	64	2	5
令和2年度	30	7	8
令和元年度	18	8	1
平成30年度	25	15	10
平成29年度	20	23	12
平成28年度	9	15	9
平成27年度	1	17	3
平成26年度	11	7	20
平成25年度	16	12	11

出典：福岡市環境局ホームページ

表 15 カブトガニの生息個体数調査の結果

年度	個体数
令和6年度	145
令和5年度	232
令和4年度	334
令和3年度	182
令和2年度	253
令和元年度	427
平成30年度	132
平成29年度	69
平成28年度	143
平成27年度	88
平成26年度	52
平成25年度	99

出典：福岡市環境局ホームページ

③ 守るべき希少な自然環境

■希少な植物群落等の分布状況

動植物の生息・生育基盤となる植生群落について、環境省の第 5 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査に記載されている特定植物群落及び、福岡市自然環境調査において確認されている群落のうち、福岡県レッドデータブックに掲載されている希少群落を抽出しました。

福岡市内では、特定植物群落として「志賀島のマテバシイ林」など 16 か所が、福岡県レッドデータブックに記載されている希少群落としては、ハンノキ群落やアカマツ群落など 20 群落が抽出されました。

表 16 福岡市内の特定植物群落一覧

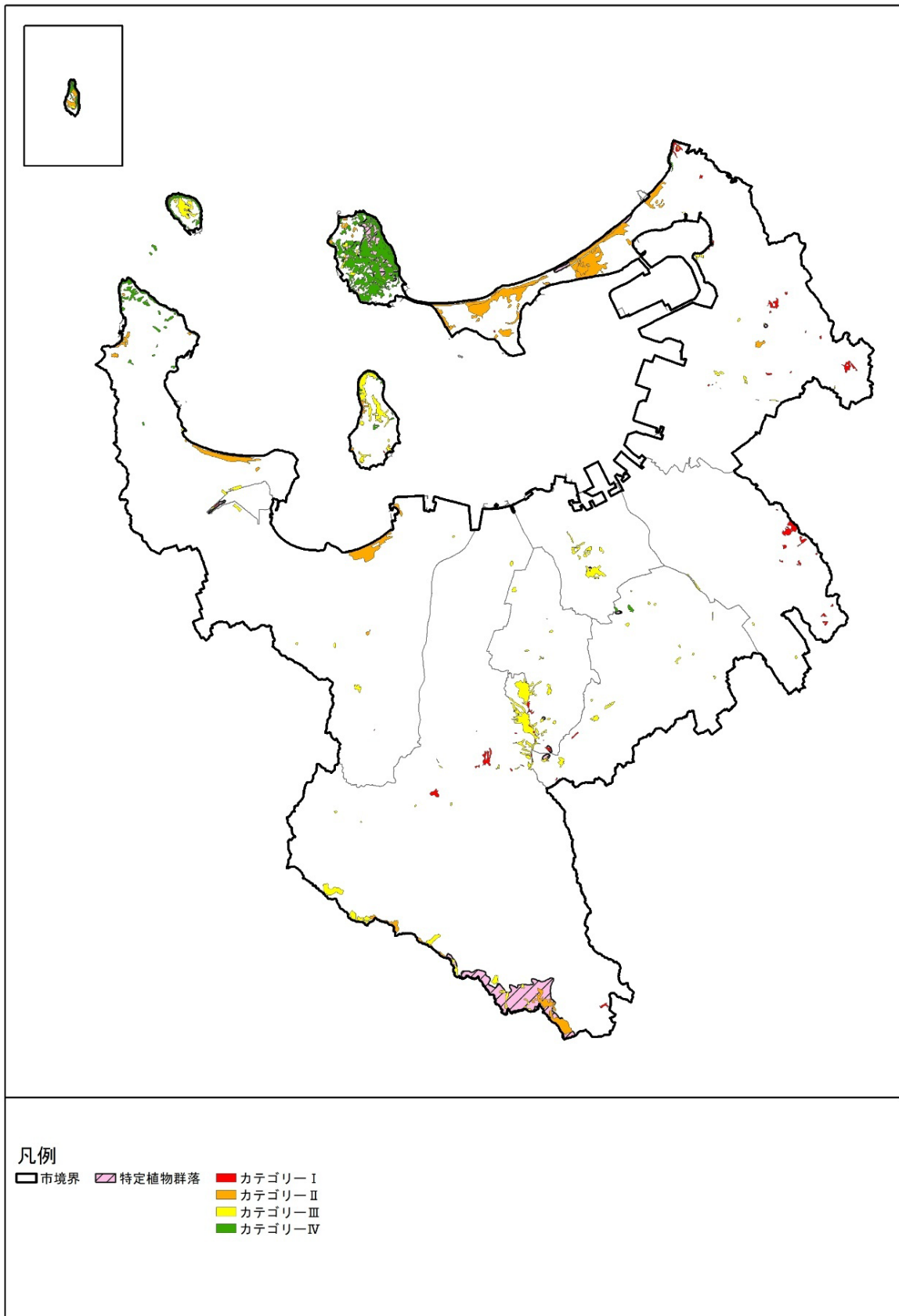
No.	群落名
1	志賀島のマテバシイ林
2	志賀島のスタジイ林
3	雁の巣の海浜植物群落
4	和白浜の海浜・塩沼地植物群落
5	香椎宮のスタジイ林
6	南公園のスタジイ林
7	鴻巣山のマテバシイ林
8	油山のアカマツ林
9	油山観音のスタジイ林
10	脊振山の自然林
11	鬼ヶ鼻のアカガシ林
12	瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落
13	玄界島のタブ林
14	玄界島のハマオモトを含む海浜植物群落
15	小呂島のハチジョウススキ群落
16	小呂島嶽宮神社の照葉樹林

出典:令和 6 年度福岡市自然共生サイト認定支援調査等業務報告書

表 17 希少群落一覧

No.	群落名	希少群落 カテゴリー	備考
1	ハンノキ群落	I	
2	アカマツ群落	I	
3	塩沼地草本群落	I	ハマサジ群落、フクト群落など
4	ブナ - スズタケ群集	II	
5	クロマツ群落	II	
6	ススキ群落	II	
7	海浜植物群落	II	コウボウムギ群落、コウボウシバ群落など
8	ミヤコザサ群落	III	
9	スダジイ - ミミズバイ群集	III	
10	ミヤマシキミ - アカガシ群集	III	
11	タブ - ムサシアブミ群集、タブ群落	III	
12	スダジイ - トベラ群集	III	
13	ケヤキ群落	III	
14	コナラ - ノグルミ群落	III	
15	ヨシ群落	III	
16	オニヤブソテツ - ハマビワ群集	IV	
17	マサキ - トベラ群集	IV	
18	エノキ - トベラ群落	IV	
19	マテバシイ - ハクサンボク群落	IV	
20	海岸風衝地草本群落	IV	ハチジョウススキ群落

出典:令和6年度福岡市自然共生サイト認定支援調査等業務報告書



出典:令和6年度福岡市自然共生サイト認定支援調査等業務報告書

図 64 希少な植物群落等分布図

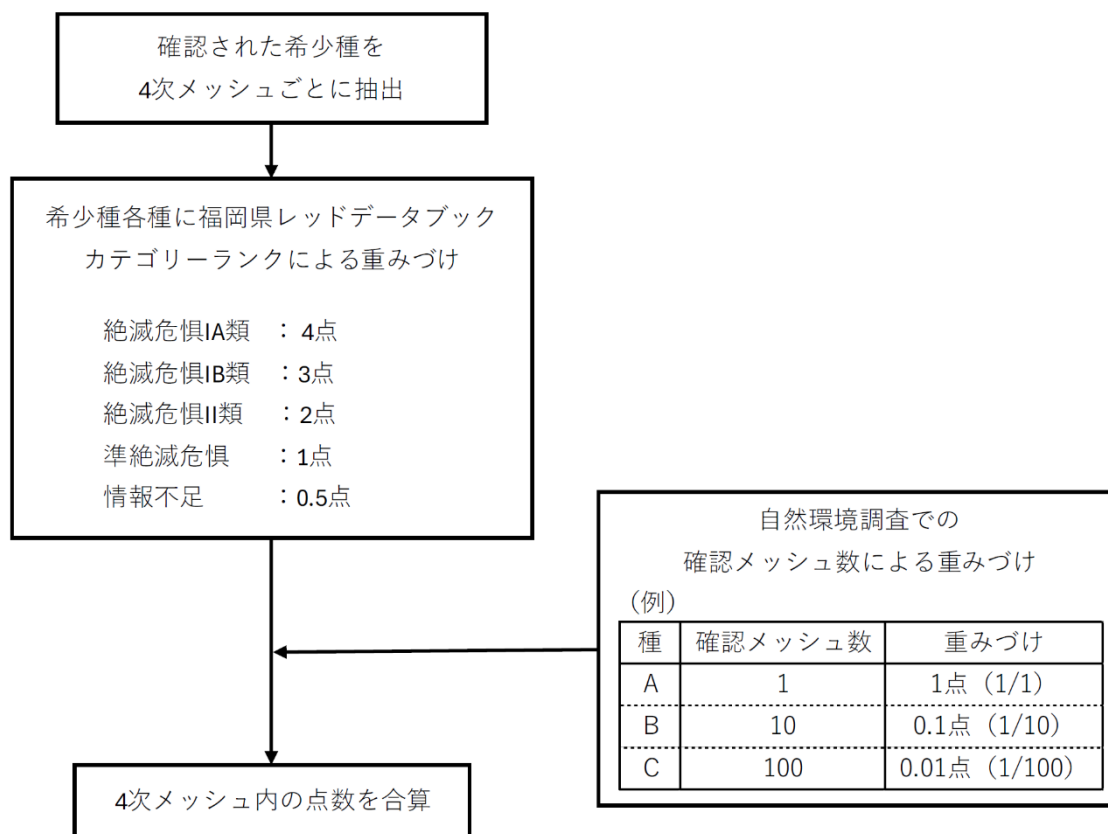
④ 希少な動植物の分布状況

福岡市自然環境調査のうち、GIS による位置情報が得られた平成 19 年度以降のデータを用い、最新の福岡県レッドデータブックで選定されている希少種の分布状況を整理しました。

分布状況の整理には 4 次メッシュ (500mメッシュ) を用い、各メッシュ内に含まれる確認種数による評価を行いました。あわせて、福岡県レッドデータブックにおける希少ランク (カテゴリー) による重みづけと、福岡市内における確認地点数を考慮した整理も行いました。

これらを踏まえ、福岡市内における希少性を反映した重要箇所の抽出を行いました。確認箇所数における重みづけ方法を図 65 に示し、算出された値に基づき抽出した市内全域での上位 5 か所を表 18 に、市街地周辺部における上位 5 か所を表 19 に示しています。また、主な希少種の写真を図 66 に示しています。

市内全域では、長浜海岸、背振山のほか、里山環境を有する金武や山地の渓谷である野河内渓谷が抽出されました。市街地周辺部では、多々良川、那珂川、室見川のほか、室見川の支川である金屑川が抽出され、上位 5 か所すべてが河川域となりました。



出典:令和 6 年度福岡市自然共生サイト認定支援調査等業務報告書

図 65 福岡市における希少性を反映した希少種指数の算出方法

表 18 福岡市内における希少性を反映した重要箇所(市内全域上位 5 か所)

エリア名	希少種 指数	地域特性	含まれる環境
長浜海岸	14.9	沿岸部(自然的地形)	自然草原(砂丘植生)、 二次林(クロマツ林)、 耕作地、自然裸地
金武	12.2	内陸部(里地里山・田園地域)	人工林、耕作地、 開放水域(ため池)
背振山	10.5	内陸部(山地・丘陵地域)	自然林(ブナ林)、 二次林、二次草原
野河内溪谷	9.8	内陸部(山地・丘陵地域)	二次林、人工林、 竹林
多々良川河口域	9.1	河川部	開放水域(河川)、 市街地

出典:令和 6 年度福岡市自然共生サイト認定支援調査等業務報告書

表 19 福岡市内における希少性を反映した重要箇所(市街地域上位 5 か所)

エリア名	希少種 指数	地域特性	含まれる環境
多々良川河口域	9.1	河川部	開放水域(河川)、 市街地
那珂川中流域	8.4	河川部	耕作地、開放水域、市街地
室見川下流域	6.7	河川部	耕作地、開放水域、市街地等
金層川	6.3	河川部	開放水域、市街地等
室見川中流域	5.6	河川部	耕作地、開放水域、市街地等

出典:令和 6 年度福岡市自然共生サイト認定支援調査等業務報告書

		
ウラギク	ブチサンショウウオ	カヤネズミ (巢)
		
クロツラヘラサギ	サシバ	オシドリ
		
シロウオ	ハカタスジシマドジョウ	カゼトゲタナゴ
		
ハマベウスバカゲロウ	コガタノゲンゴロウ	ペニイトンボ

出典:

「平成 31 年度自然環境調査(昆虫類)委託報告書」(2019(令和元)年)

「令和 2 年度自然環境調査(鳥類)委託報告書」(2020(令和 2)年)

「令和 3 年度自然環境調査(水生生物)委託報告書」(2021(令和 3)年)

「令和 4 年度自然環境調査(ほ乳類・は虫類・両生類)委託報告書」(2022(令和 4)年)

「令和 5 年度自然環境調査(植生及び貴重植物)委託報告書」(2023(令和 5)年)

図 66 主な希少種の写真